

聴く力

首都決戦、東京都知事選挙もラストサンデー（24日）。この一週間は各陣営ラストスパートに必死だ。

鳥越、小池先行、追う増田というのが前半。今日の報道では小池、増田拮抗、追う鳥越と。

埼玉県民としても、猪瀬、舛添というあっけない幕切れ、任期途中での辞任などは見たくない。

さて、政策がないともいわれる鳥越氏はジャーナリスト魂でもある「聴く力」があるとアピールしていた。

先日 川越市から全国へアピールする企業でもある「聞き流すだけで英語が上達」でおなじみの「スピードラーニング」を開発販売している株式会社エスプリラインの相談役 大谷稔さんの話を聞く機会を得た。

大谷さんは「聞き流すのは英語だけ。聴くことが大事であることは仕事でも家庭でも同じこと。聴く力がないと人の心をつかむことはなかなかできないのものだ。自分でも意識的に聴く気持ちを大切にしたら心の友が増えたのだ。人間関係を醸成するには「聴く力」。しかも深く聴くことが大切なのだ。」と持論を展開した。

「聴く力」は、人間ができていないとなかなか難しい。というのは人間、歳を重ねて、経験を積むと自分の知識を過信してしまい、またその知識をひけらかしたくなるものだ。饒舌になってしまうことも然りだ。しかし、「まずは聴いてみる」そして、考察したり、反省したりする。人の話に耳を貸さない人はそれまでなのだ。伸びしろはない。

そんなことを考えながら、自分におきかえ、日々精進とも思う。

伊勢谷 珠子